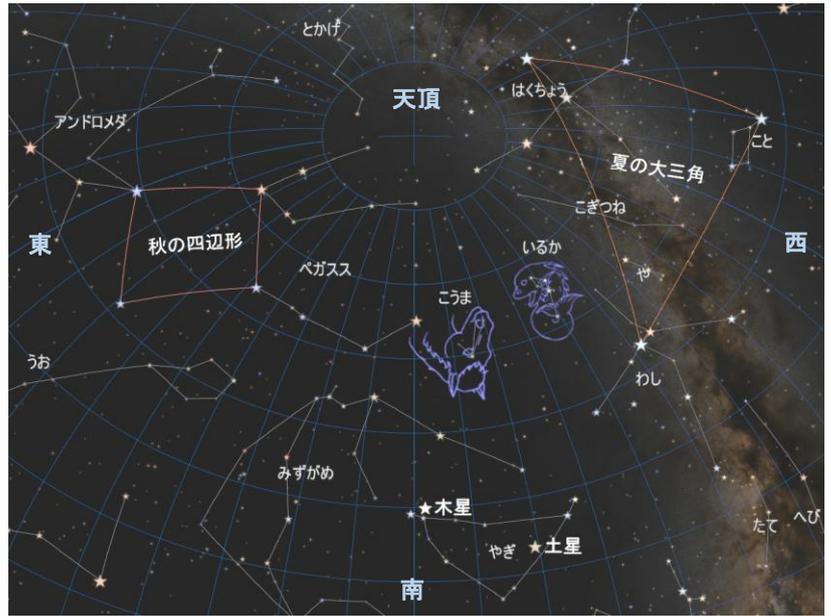


ジオスペース館だより

ステラナビゲーター11を使用して作成

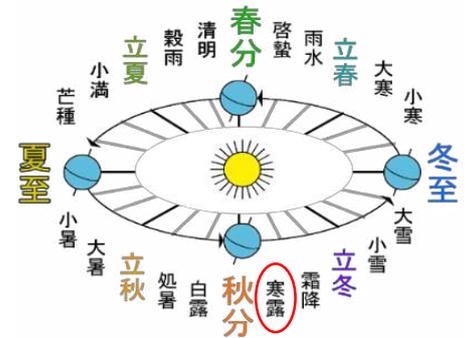
★ 今月の星もよう ★

10月中旬夜8時頃の南の星空を見あげると、空を二分するように、西側には《夏の三角形》と夏の星座が、東側には《秋の四辺形》と秋の星座が見えます。そして《夏の三角形》と《秋の四辺形》の間には小さな星座が並んでいます。古代ギリシャから伝わる「いるか座」と「こうま座」です。「いるか座」は、4個の星でつくられた菱形に2個の星が重なっていて、まるでいるかが飛び跳ねているような形をしています。ギリシャ神話では、いるかは海神ポセイドンの使いとされて親しまれていました。その小さな菱形はとても目立つ星の並びで、日本でも古くから「菱星」と呼ばれています。また、「こうま座」は目立たない星座ですが、星座図では天馬ペガサスの頭と並んでいて、ギリシャ神話ではペガサスの第1にあたる馬とされ、ケレリスと名付けられています。秋の夜長、星空を観察し、かわいらしい小さな星座たちを探してみましょう。



★ 二十四節気・10月8日は《寒露》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。10月上旬の節気は《寒露》と呼ばれ、毎年10月8日頃がその日にあたります。《寒露》とは、秋が深まり、草木に冷たい露が降りる頃を意味し、《寒露》を迎えると、朝晩はひんやりと肌寒く、本格的に秋が深まる季節です。秋晴れの過ごしやすい日が多く、空気も澄み渡り、空が高く感じられます。



★ 南西の空で月が金星、アンタレスに接近!

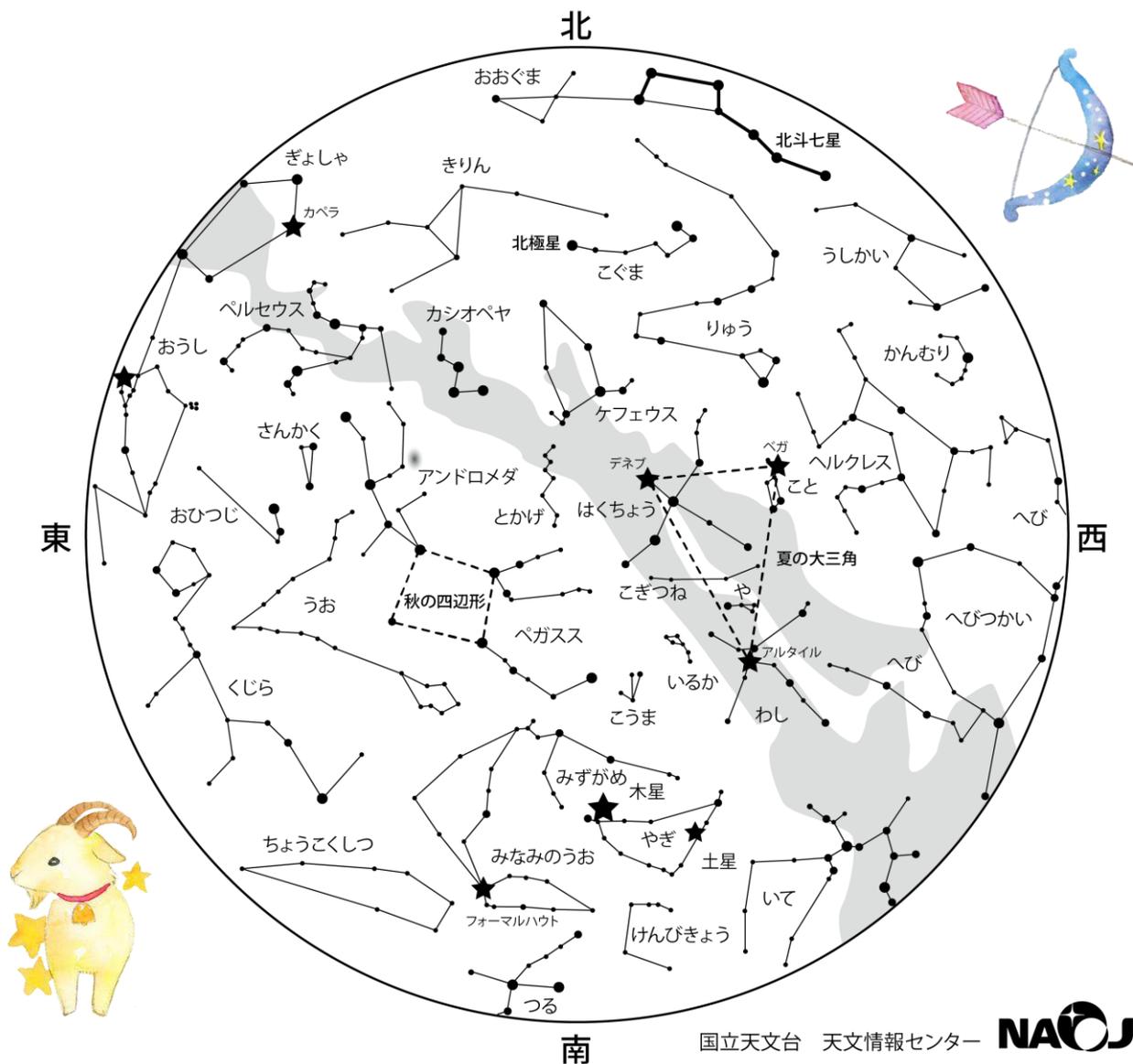
10月9日から10日にかけて、南西の低い空で、細い月が金星に近づきます。9日は月が金星の右側に、10日は金星の左側に移動し、そのすぐ下には「さそり座」のアンタレスが見えます(16日には金星のすぐ左下にアンタレスが来ます)。日の入り後30分くらい、空が暗くなってきた頃に、とても目を引く光景となるでしょう。その後、少し太った月は14日には土星に、15日には木星に接近します。



月は大きさを強調しています

- ★ 10月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★
- ★ プラネタリウムのお休み 10/4(月)、11(月)、18(月)、20(水)、25(月)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

10月上旬午後9時頃の星空



★ 10月上旬の主な天文現象

6日(水) ● 新月	12日(火) いて座 Φ 星(3.2等)の食
8日(金) 寒露	13日(水) ● 上弦
9日(土) 細い月と金星が接近、	14日(木) 月と土星が接近
10月りゅう座流星群が極大	15日(金) 月と木星が接近
10日(日) 細い月と金星が接近	

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 10/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 10月4日(月) [見やすさ ◎]	18:55 北北西	~	18:58 北北東
◇ 10月6日(水) [見やすさ ◎]	18:57 北西	~	19:01 南
◇ 10月7日(木) [見やすさ ◎]	18:10 北西	~	18:16 南東
◇ 10月9日(土) [見やすさ ◎]	18:12 西北西	~	18:18 南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。